

交流人口（観光宿泊延数）の状況について

1 観光宿泊延数の推移と特徴・課題

図1-1 旭川市 宿泊延数の推移
(上期(4~9月)・下期(10~3月)別)

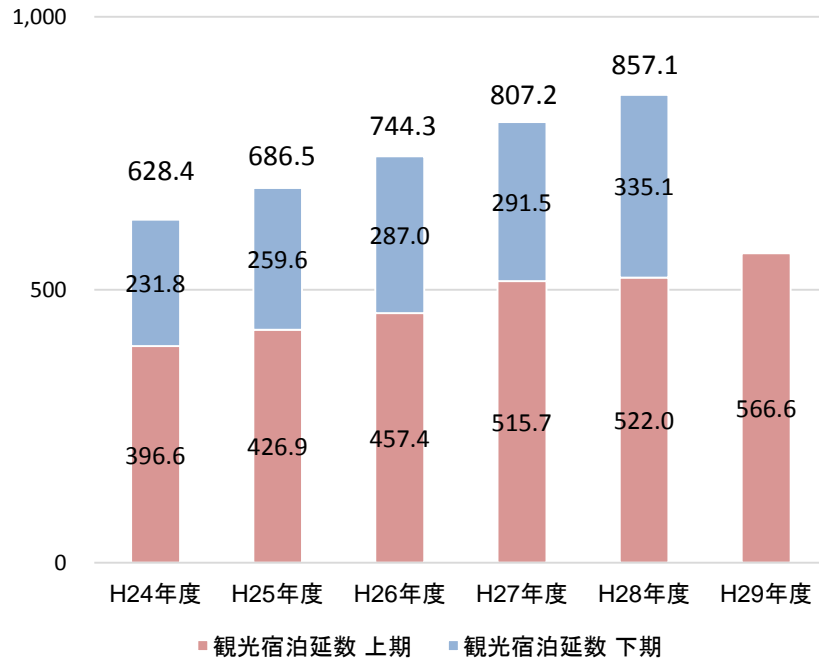
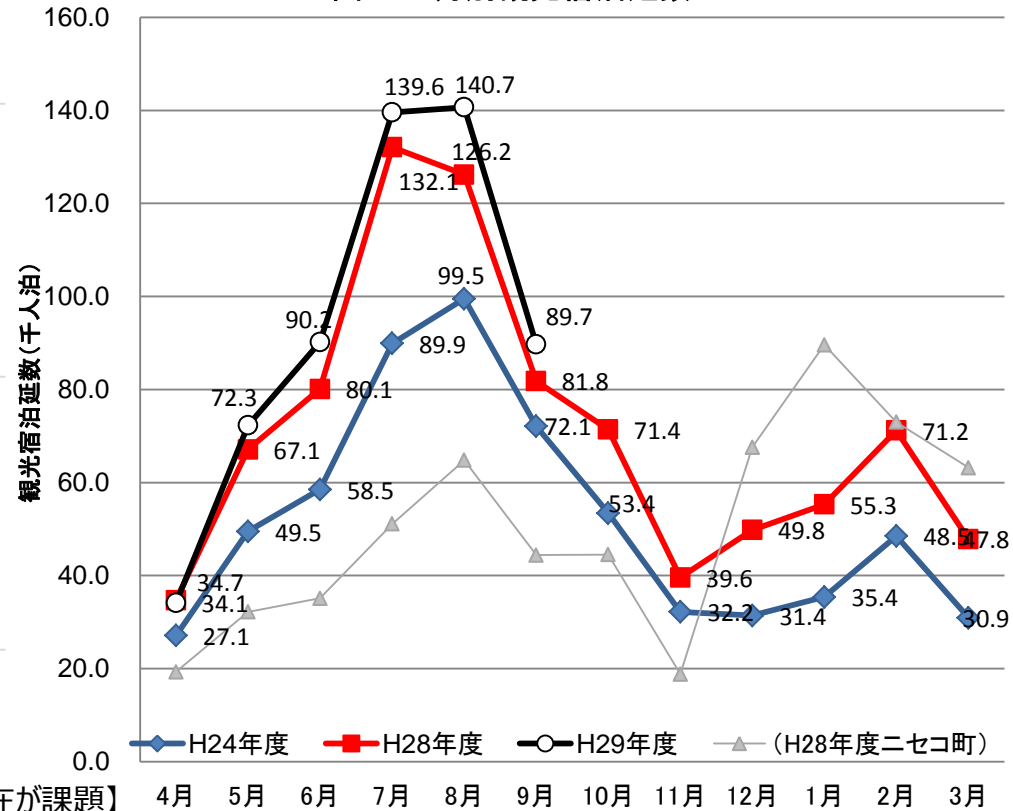


図1-2 月別観光宿泊延数



【主な特徴：年間観光宿泊客は増加傾向にあるが、季節偏在が課題】

- (図1-1) 本市の観光宿泊延数は、平成24年度以降、毎年度増加しており、最新値の平成29年度上半期も過去最高数値を更新している。
平成29年度上半期は、旭山動物園開園50周年を記念した本市宿泊を伴った旅行商品が造成されるなど、国内客と外国人観光客が夏場の宿泊稼働率を押し上げ、対前年同期比108.5%、44,600泊増となり、上期としては3年連続で過去最高となった。
- (図1-2) 月別観光宿泊延数の平成24、28、29年度上半期の比較では、いずれの月も増加しているが、依然として、夏季（7-8月）と冬季の季節偏在が課題である。
これは全道的な傾向であるが、参考掲載しているニセコ町のように海外スキー客の取り込みにより、冬季の夏季以上の観光宿泊客を確保している地域もあり、優良な雪質の多様なスキー場を有する本市地域もこの可能性を生かす取組が必要である。

2 海外観光宿泊延数と特徴・課題

図2-1 旭川市観光宿泊延数の推移(国内・国外別)

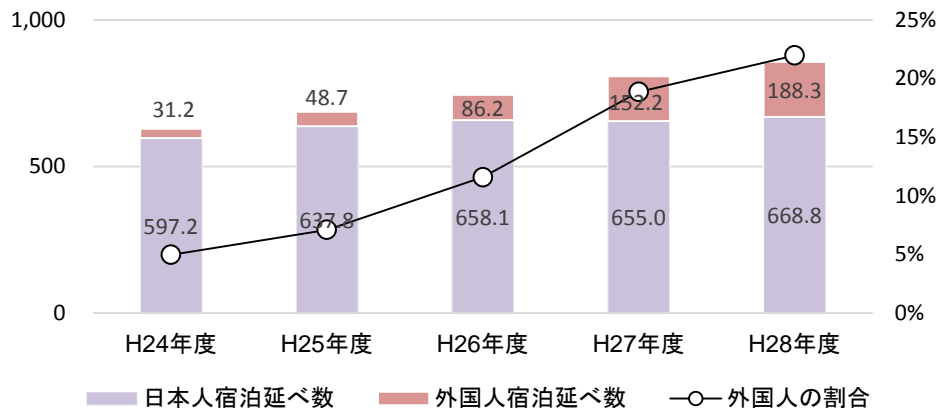


図2-2 主な国別観光宿泊延数の推移

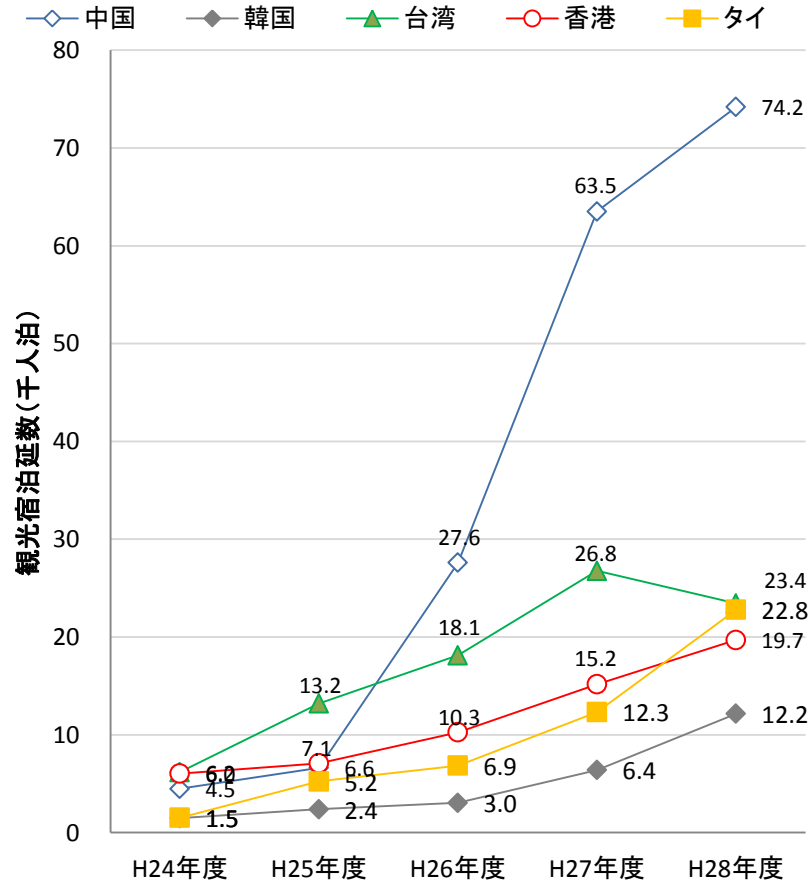
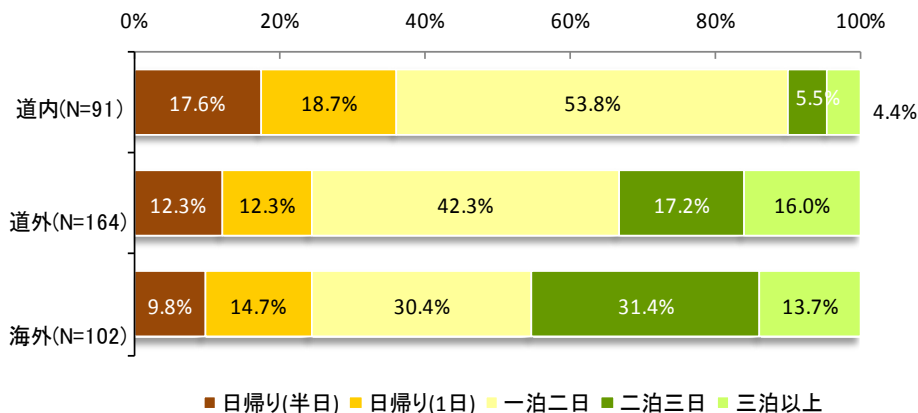


図2-3 道内・道外・海外別観光客の圏域内滞在時間
(平成29年度来訪者アンケート調査(夏季)結果より)

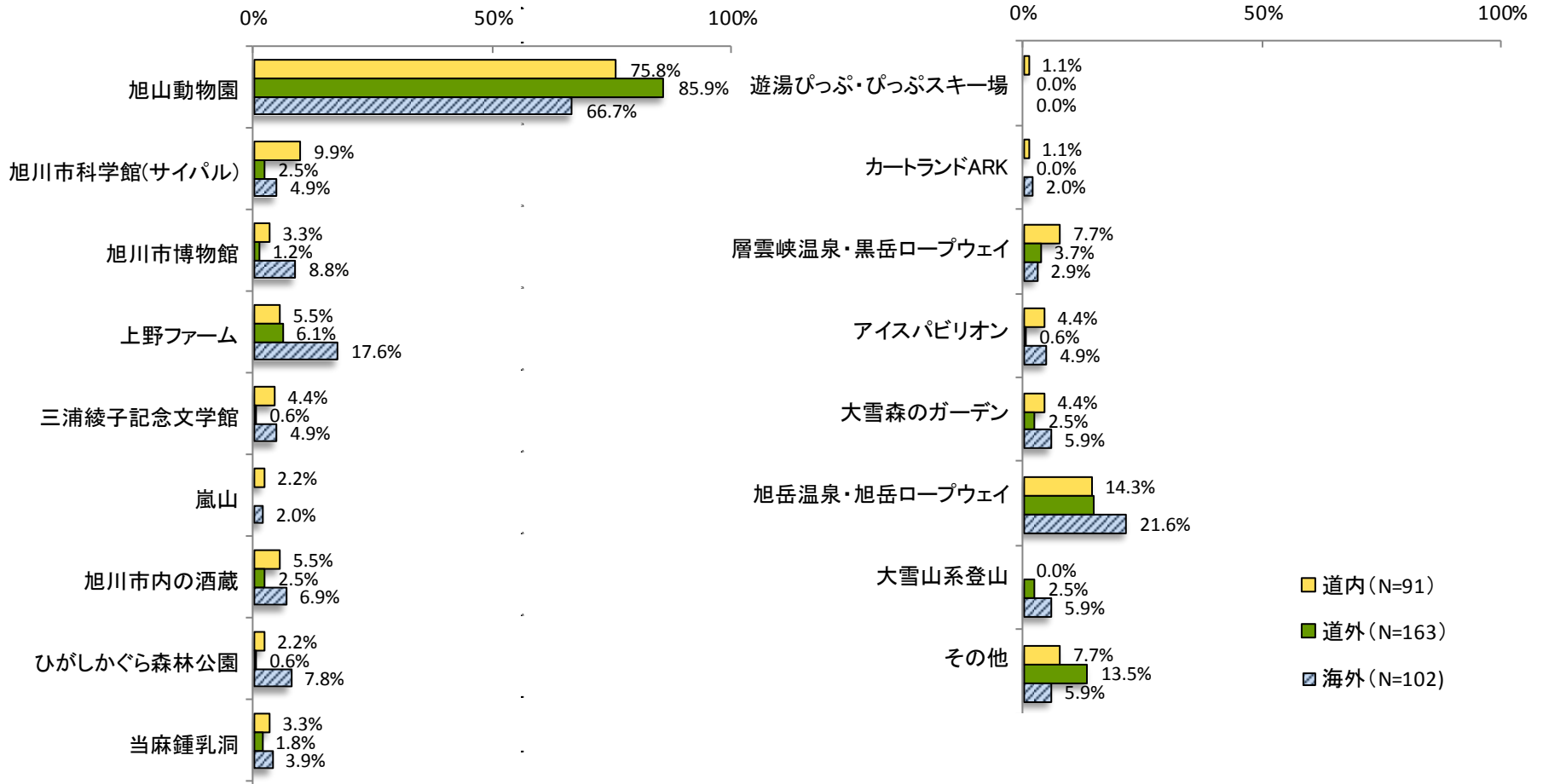


【主な特徴：長期滞在傾向のある海外観光客が増加傾向】

- (図2-1) 観光宿泊延数の日本人・外国人別の内訳では、平成24年度以降、ともに増加しているが、特に外国人の増加割合が大きく、平成28年度には20%を超えている。
- (図2-2) 外国人観光客の国別内訳では平成28年度で中国、台湾、タイ、香港、韓国の順となっており、国際定期便があった中国が大きく増加しております。(H29上半期は中国のみ前年同期比で減少となっている。)
- (図2-3) 平成29年度来訪者アンケート調査(夏季)の結果から、外国人観光客の約30%が圏域内に1泊、約31%が2泊、約14%が3泊以上すると回答しており、日本人観光客より長期滞在する傾向がある。

3 観光客の動向・ニーズ等（平成29年度来訪者アンケート調査（夏季）結果より）

図3-1 道内・道外・海外別観光客の圏域内訪問先

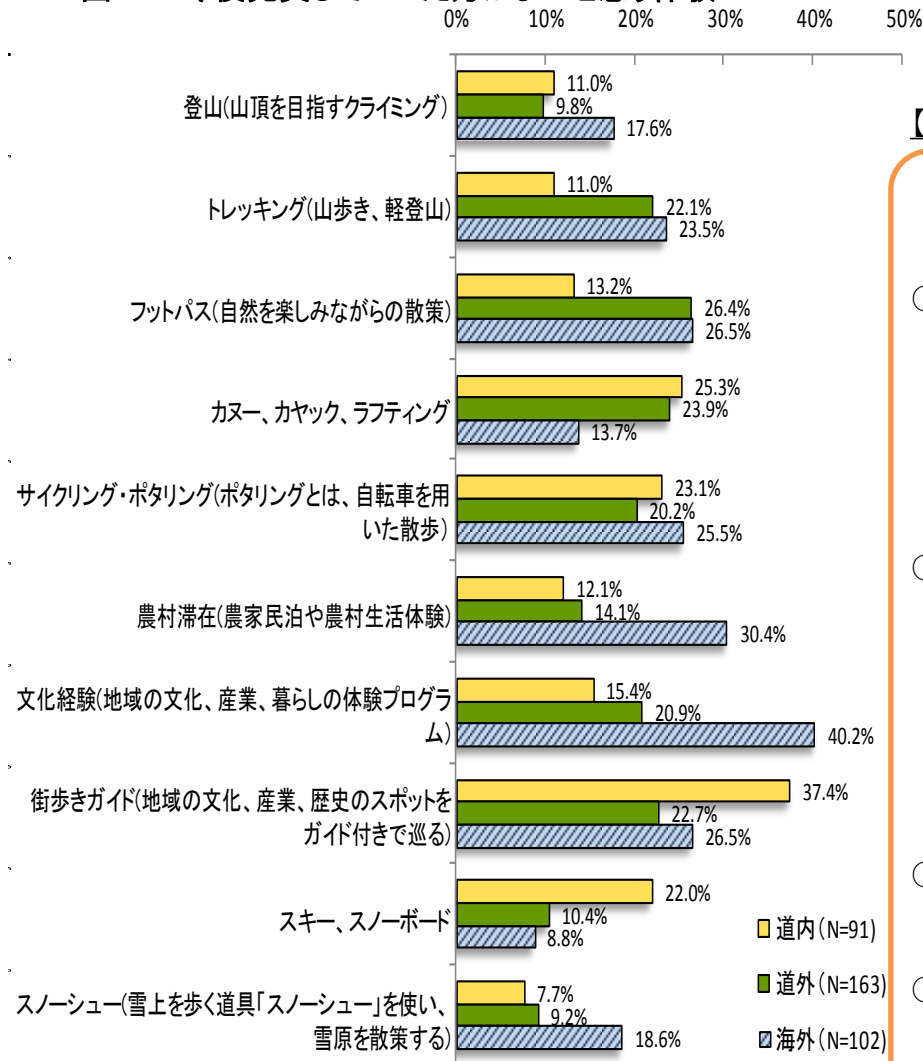


【主な特徴：現状では観光客は旭山動物園に集中】

- (図2-1) 今回の旅行で訪問した(する)場所についての設問(複数回答)では、旭山動物園が道内客(75.8%)、道外客(85.9%)、海外客(66.7%)といずれも他の項目を大きく上回る。次いで、旭岳温泉・旭岳ロープウェイが、道内客(14.3%)、道外客(14.7%)、海外客(21.6%)となっている。他の場所では、道内客及び道外客で10%を超える特定の場所は無い。海外客では、上野ファームが17.6%となっているほか、10%を超える特定の場所は無い。
- 観光客の旭山動物園一極集中の状況から他の集客施設等に周遊を促進することで、圏域内の滞在時間・期間と観光消費の増加を図ることが課題。

3 観光客の動向・ニーズ等（平成29年度来訪者アンケート調査（夏季）結果より）

図3-2 今後充実していった方がよいと思う体験メニュー



【主な特徴：海外観光客を中心に自然や文化等の体験型のニーズあり】

(図3-2)

- 来訪者に今後充実していった方がよいと思う体験メニュー（複数回答）について聞いた結果では、道外客では、「フットパス（自然を楽しみながらの散策）（26.4%）」、「カヌー、カヤック、ラフティング（23.9%）」、「街歩きガイド（22.7%）」、「トレッキング（山歩き、軽登山）（22.1%）」、「文化体験（地域の文化、産業、暮らしの体験プログラム）（20.9%）」、「サイクリング・ポタリング（20.2%）」といった順で回答が多かった。
- 海外客では、「文化体験（40.2%）」、「農村滞在（30.4%）」、「フットパス（26.5%）」、「街歩きガイド（26.5%）」、「サイクリング・ポタリング（25.5%）」、「トレッキング（23.5%）」の順で回答が多かった。また、「登山（山頂を目指すクライミング）（17.6%）」が道内客（11.0%）、道外客（9.8%）と比較して多かったほか、夏季調査にも関わらず「スノーシュー（雪上を歩く道具を使い雪原を散策する）」が18.6%と道内客（7.7%）、道外客（9.2%）と比較して多かった。
- 道外客のトレッキングやフットパス、ラフティングやサイクリングなどのニーズに対応し、自然と健康・保養を組み合わせた体験型コンテンツの充実が課題である。
- また、海外客の文化体験、街歩き、スノーシュー体験など非日常体験のニーズに対応したコンテンツの充実が課題である。

4 交流人口の増加に向けた平成30年度の主な取組

交流人口の増加による地域経済の活性化を図るためには、周辺町と連携して、課題となっている冬季間の観光集客に重点的に取り組み、また、海外観光客を中心にニーズのある体験型のツーリズムを積極的に提供していくことで、通年で滞在観光客を増加させるとともに、圏域の事業者等と連携し、滞在観光客に圏域の食や物産等を提供していくことで、稼ぐ観光地域づくり推進する。

また、旭川空港については、本年秋に国際線ターミナルがオープンし、道内7空港一括民間委託に向けたプロセスも推進されることから、北北海道の空の玄関口としてより多くの観光客が利用されるよう、国内外の定期便就航の拡大に向けた取組も更に推進していく。

大雪カムイミタラDMOによる観光客の圏域内滞在の促進

○昨年10月に設立した一般社団法人大雪カムイミタラDMOは、スキーや登山、サイクリングなどのスポーツ・アウトドア体験、アイヌ民族の歴史や文化体験など、多様な体験型のコンテンツを提供していく。

○特に、冬季間の観光宿泊客の増加に向け、圏域各スキー場の持つ、国内最高水準の雪質、初心者から上級者まで楽しめる多様なコース、中核都市や空港から近距離にあるという他圏域と差別化できる特性を生かした都市型スノーリゾート地域の構築を推進していく。

○このため、カムイスキーリンクスの指定管理をDMOが受託し、新年度から運営を開始する予定。カムイスキーリンクスは、IC自動ゲートの設置など外国人スキー客向けサービスの充実のほか、情報発信、プロモーション活動や共通シャトルバスの試験運行などをキャンモア、びっぐ、旭岳など圏域各スキー場と連携して実施していく。

○また、食や温泉、旭山動物園をはじめ圏域の集客施設や冬季イベントなど、アフタースキーにつながる情報を積極的に提供し、スキー客等の滞在時間・期間の長期化、観光消費の増加につなげていく。



旭川空港の充実

- 国際線ターミナルは、平成30年11月末の供用開始を目指して、空港ビル株式会社が、ターミナルの増築と既存棟の改修工事を進めている。
- 空港民間委託は、道内7空港一括民間委託を目指し、国や、道、帯広市との管理者間の協議や検討を進めている。新年度は、優先交渉権者の選定手続きのプロセスに入る予定をしており、アドバイザー業務を委託し、競争的対話などの選定業務を進めている。
- 定期便の更なる就航に向けては、航空会社に対しまして、着陸料減免やデアイシング費用に対する補助などの運航支援を引き続き実施するとともに、道北・オホーツク地域の優れた観光や食をアピールし、冬季の就航率の高さや旭川空港の立地の優位性をセールスしていくほか、更に多くの方に利用してもらうことができるよう、旭川空港の利便性を市内外にPRしていく。